

日本労働年鑑 戦後特集(第22集)  
The Labour Year Book of Japan post war special ed.

第二篇 労働組合

第三章 労働組合運動

第六節 示威運動(つづき)

8、生活権確保吉田内閣打倒国民大会

一九四六年十二月十七日・東京他各地

この大会は全国労働組合懇談会、日本農民組合、社会党組合委員会提唱の下に、宮城前広場で行われた。参加者は主催者側の発表によれば五十万名にのぼったが、日農の野溝勝氏開会挨拶を行い、議長に社党加藤勘十、副議長に国鉄鈴木清一、全通土橋一吉の各氏がおされ、総同盟の原虎一、産別の中原淳吉、社会党水谷長三郎、共産党徳田球一、国民党の早川の諸氏の代表演説が行われ、夫々悪性インフレの根源吉田内閣の打倒を叫んだ。

内閣に対する決議と各野党に対する決議は次のとおりである。

内閣に対する決議

吉田内閣は組閣以来すでに八ヶ月、その間インフレ財政を強行しもつて国民生活を破壊し産業再建の路をはばみ、三月危機の爆発を予見せしむるに至った。いまにして国民勤労大衆絶対支持の新政権を樹立するにあらざれば、ついに日本民族は、重大危局に際会したるを確認する、よつて本国民大会は、八千万国民同胞の名において吉田亡国内閣の即時退陣を要求するものである。

各野党に対する決議

本国民大会は現下重大危局に当り、在野各党が吉田亡国内閣を即時打倒し、新民主政権を樹立し、もつて国民勤労大衆の念願してやまざる新政策実現のために一致協力、シシ奮迅せられんことを要請するものである。

日本労働年鑑 第22集／戦後特集

発行 1949年8月15日

編著 大原社会問題研究所

発行所 第一出版

2000年2月1日公開開始